



NO. 339

2021. 9. 15

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会

大阪市天王寺区東高津町12-10

大阪市立社会福祉センターB1F

発行責任者 小泉 いと子

TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623

<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>

定価 10円

## 大阪市手をつなぐ育成会 法人理念

**障がいのある人が 安心して 心豊かに すごせるように**

### 東京パラリンピックの開催に思うこと

理事長 小泉 いと子

日頃は育成会活動にご支援頂きましてありがとうございます。

新型コロナウイルスの第五波が広がり、緊急事態宣言が発令されてから1ヶ月が経ちましたが、大阪では収束の見通しどころか、9月1日には新規感染者数が、3,000人を超えました。感染力が強くなったウイルスが、いよいよ私たちにも攻めかかってきている現状に恐怖を感じます。

そんな中ではありますが、東京でパラリンピックが開催され、開会式では、13歳の少女が演じたヒロインの、勇気を振り絞り新たな世界へ飛び立つ姿が共感を呼びました。車いすのヒロインを演じたのは東京都の中学2年生 和合由依さん、演技経験はありませんでしたが、上肢下肢に先天性の障がいのある自らを重ねるように「片翼の小さな飛行機」を演じ、不安な気持ちや困難を乗り越えるメッセージを伝えてくれました。

翌日には、『右側のみ翼がある車いすで、滑走路に見立てた長い通路を一生懸命に走り抜けた。片翼であることの葛藤を乗り越え、勇気を出して飛び立つ姿を豊かな表情で熱演。SNS(ネット交流サービス)上では「素敵だった」「パワーをもらった」と称賛する声が多数あり、25日には国際パラリンピック委員会のクレイグ・スペンス広報部長も「由依ちゃんというスターが新しく日本に生まれた。私も泣いてしまった」と称えた』と各メディアが紹介しました。

ご覧になられた方々それぞれが、日々前進しようとする勇気をもらい、私たちも羽ばたいていけると希望を持つことが出来たのではないのでしょうか。

それから、全国手をつなぐ育成会連合会 久保厚子会長のメッセージが「(2020+1 思う) 絵も音楽も、共に生きる道がある」として、朝日新聞に掲載されました。

### 記事概要

パラリンピックは選手が障がいを乗り越えて、自信を持って、今の生き様を表現する素晴らしい場です。

今回の開催はコロナ禍であるため、大変な思いをされている方も多くいる中、やってもいいのかという思いと、選手の努力は報われて欲しいという両方の複雑な思いがありました。

誰しもがスポーツで頑張れるわけではなく、「運動は逆立ちしても無理」という人もおり、自己表現の方法はスポーツだけではなく、絵や音楽、舞台などもあり、そこに楽しみや生きがいを感じ、そこから社会参加に繋がる例もたくさんあります。

今回の五輪とパラリンピックに際し、文化庁では、日本の文化・芸術を紹介する事業を行い、私たちはその一環で、他の団体と共に障がい者の文化・芸術活動等いろんな選択肢があるということを発信し、スポーツと共に「一緒に楽しむ場」を広げ、障がいに対する見方を変える拠点にしていきたいと考えています。

また、知的障がい者やその家族には、差別やいじめを経験している人が多くいます。そういうことをなくし、人権を守りたいという思いで活動をしてきました。

障がいがあっても、それぞれが豊かな感性を持ち、できることもたくさんあります。専門的な勉強をしていなくても、心のままに描いた絵が、アールブリュット(「生の芸術」【きのげいじゅつ】の意味)として評価されるようにもなりました。障がい者は、ただ支え